



日本洋書協会

JAPAN ASSOCIATION OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

JAN 2014
REPORT MAGAZINE

会報誌 | vol. 48 no. 1

Published by JAIP 1-32-5 U.S.P Higashishinagawa Shinagawa-ku, Tokyo 140-0002

Call:03-5479-7269 e-mail:office@jaip.jp



TABLE OF CONTENTS

- 新春理事対談
- 理事会報告／海外ニュース
- 専修大学図書館見学会
- International Book Fair in 2014

写真左から、細谷理事、相澤理事、松村理事、山川理事、土方理事長、グレシャム副理事長、小松崎理事

新春理事対談

あけましておめでとうございます。2014年新年号は趣向を変え「新春理事対談」をお送りします。本対談の目的は、洋書に関わる各分野でご活躍の理事の皆様へ2013年を振り返りながら2014年を展望していただき、関連業界の流れを再確認することができればというものです。なお、発言はあくまで理事の皆様それぞれの視点での概観であり、JAIPの統一見解というわけではないことを申し添えさせていただきます。(メディア広報委員長 平野 覚)

山：進行は山川が務めさせていただきます。まず2013年を振り返り市場別にお聞きしていきたいと思います。大学、官公庁市場について、丸善の土方さんお願いします。

土：大学、官公庁市場については、まず大学の図書館予算がこの5年間で大きくダウンしていることに触れなくてはなりません。資料費全体では6%、洋書に注目すると5年間に25%もダウンをしています。絶対に必要と言われている研究市場の外国雑誌ですら7%のダウンです。また、実は和書も11%ダウンしています。洋書の25%ダウンは予算が外国雑誌維持に使われたしわ寄せであ

り、その影響が洋書、和書という順番で出ているのだと思います。

この傾向は、ここ数年、あるいは10年近く変わっていないことで、更に続くものと思われますが、一方で文科省の科研費や競争的資金は増えています。つまり、科研費を申請するような研究者へのアプローチを強化することで、図書館予算の減少をカバーしていくことが必要ではないかと思っています。

もう一つのポイントとして、大学では英語教育を見直そうという動きが顕著になっています。留学生の受け入れ等を含めて、ELTの英語教材など、動きが期待できるのではないのでしょうか。

山：ありがとうございます。それでは次に民間についてユサコから発言させていただきます。民間企業は主としてSTMが中心です。大学と異なり、図書館がなくても問題はなく、徐々に図書館が減少しつつあり、洋書の需要は非常に落ちてきています。市場の中心は製薬企業ですが、大きな企業であるほど、外国雑誌などは海外の研究所を中心としたライセンス契約となり、日本国内の

ビジネスはなくなってしまうという問題があります。その意味も含めて民間企業の市場は本当に厳しい状態で、すし、今後もそれが続くものと見ています。

山：次は卸しについて、UPS のマークさんお願いします。

マ：UPS は卸屋ですからエンドユーザーとの接点がないのが特徴です。

それに、店舗向きの卸も年々少なくなっています。洋書売り場が小さくなっています。ですから、UPS はやはり図書館への提供が中心で、専門書店や総合書店を頼らなければなりません。

山：ありがとうございます。それでは次は、ビューロホソヤの細谷さん、出版社を代表する立場として、日本の市場をどのようにご覧になりますか。

細：私が日本の窓口を担当しているのはフランス刊行物全分野とフランス以外ではSTM のジャーナルが中心です。この3年ぐらいいは幸い好調だったといえます。毎年20%以上も上昇する出版社もありました。ただ、2013年は本当に正念場です。

まず、紙の書籍は非常に厳しく、2~3社以外はダウンの傾向です。皆さん同じ方向に向かい、競争で失ってしまうようです。伸びている2~3社は他社がやっていないところを開拓しているようです。

あと、ライセンスの方ですが、やはり円安と消費税増税があり、私の関係する範囲では、この2013年はやはり厳しいです。2014年については、2013年の成果を見てから戦略を考えようと思います。

山：ありがとうございます。それでは、次はメディア別にお聞きします。まず、外国雑誌について、土方さんお願いします。

土：資料費全体で見ると下降線を辿っていますが、外国雑誌の市場規模は、ほぼフラットに推移しています。しかし、誌代の値上げ、円安、消費税の増税があり、全体で2~3割くらいの値上げとなっていて、この影響はかなり大きいと思います。大型パッケージをキャンセルするところも出るでしょうし、バイパービューのような契約の仕方も多くなるかもしれません。中小規模の顧客では、かなりの部分をカットしなければならないでしょうし、外国雑誌ビジネスにとっては受難の年であるような気がします。顧客が外国雑誌を維持しようとする、と、年度末予算がかなり絞られてくるということもあります。外国雑誌ビジネスにとっては正念場の年。今年の動き次第で、来年は「変わらなければならない年」になるのではないかと思います。

山：ありがとうございます。では、次に書籍について極東書店の相澤さんお願いします。

相：書籍と申しまして、うちの場合は社会科学を中心として、それに若干人文が重なっているという感じです。かなり狭い領域で、顧客の7~8割は大学です。それを前提に私個人の考えとして発言しますと、私は37年間極東書店にいますが、かなり厳しいと感じるのは、

ここ12~13年なのです。それまでは、基盤の弱い会社といいながらも少しずつ伸びていたもので、本当にこの12~13年は随分きつくなってきたというのが率直なところでは。

うちは専門洋書を扱い、大学を相手にしていますので、どうしても国の政策の影響を受けます。文教的な予算は随分変わってきていますし、伸びていません。さらに、それに輪をかけたのが国立大学の法人化で、あれからもう9年目、国立大学への予算は東大と京大への国からの運営交付金を上回る1,600億円も減少していて、東大と京大がなくなっているという規模の予算の低下です。

私立大学はもともと国の助成は少ないので、何とかやっているようです。極東書店の取引も昔は国立大学が非常に強かったのですが、今は私立大学の方に売上の比重が移っています。全体が上がってないのですよ。

それに、円安の影響が大きいです。その影響はこれからしばらく続くと思いますから、もちろん、いろいろと期待は持ちたいのですが、年度末の動きも少し厳しめに見ておかなければと思っています。

山：ありがとうございます。同じ書籍ということで、絵本の家からコメントはありますか、小松崎さん。

小：うちが始めたころは30年前のバブルの最後ぐらいたすが、その頃絵本は飛ぶように売れていました。今は小学校の英語教育が本格的に始まりますので、需要はあるはずですが、ただ、やはりその需要は値段に敏感で多分アマゾンにはほとんど行ってしまうのか、あるいは名前のきちんとあるところに行くのかなと思っています。

アマゾンの影響についてはもう随分前から危機感があり、いろいろと努力をしてきました。日本語の解説を付けたり、見込みの高いタイトルをまとめて作ってもらいコストを下げ、うちですべて扱うとか。

絵本は教材の主たるものにはならないということがありますが、副教材としての絵本は小学校にとってはとても使えるわけです。昔は女性がおしゃれに洋書を買っていたのですが、今は違います。英語教育関連の需要は増えていると思います。

そのような中で大切なのが、セレクションする能力です。うちはセレクションで生きてきたので、セレクションした挙句にアマゾンに行ってしまうとやっつけられませんか。本屋さんの洋書売り場と同じです。本屋さんに洋書売り場がなくなってしまうと、選ぶ人がなくなってしまいます。

土：アマゾンの影響は大きいですね。やはり消費者は価格に敏感なので、店を見て、後はアマゾンにということになってしまいます。絵本がそうであれば、ほかのものはすべてそうなります。専門書も買うものが決まっていればアマゾンに流れてしまう。アマゾンと同じ価格を店舗でできるかといえば、コストがかかるので難しいでしょう。

山：それでは次はデジタルコンテンツについて、ユサコからお話しします。デジタルコンテンツは雑誌の延長です

が業態が全く異なり、外国雑誌の取次からライセンシングのビジネスへの転換になります。非常に手間がかかりますし、国立大学では入札があり、取引のサイズが大きくなれば出版社が直接顧客と取引するようになりますから、間に入る者の役割というのが難しくなります。

STMに関してはもう完全デジタルコンテンツに移行しているといえますが、その他の分野もそうなるっていくことは間違いないと思います。ただ、デジタルコンテンツのビジネスをやるには、ITの基礎知識と知的財産の知識を持っておかなければなりません。今までは、本屋さんは自分のリスクで本を仕入れて売っていたのですが、今度は出版社の代わりにライセンシングを代行するわけで、出版社寄りに立つことになります。出版社に所属してしまうというのか。

山：STMの次はELTについて、センゲージラーニングの松村さん、お願いします。

松：ELT全般の市場の状況は非常にいいと思います。教育需要は非常に上がっていてこれが一番大きいです。それに政府が「グローバル人材」をキーワードとして推しているんで、今まで予算が付いていなかったような英語学習などに関連する学部や語学センターなどに、かなりの予算が付くようになっていきます。ただ、予算が付いたことのないところでもあって、それをどうやって使っていくといいかという点をこちらが提案する必要があります。しかも、どちらかというとデジタル系のものに流れやすいようです。

土：以前、英語の教材は洋書から和書に動いたことあったのですが、今は外国語教育に大学等が力を入れるということで、また和書から洋書の方に流れているという傾向もあるようです。それから、小中高や民間の外国語教育市場からの注文も増えてきているということも報告を受けています。しかし、需要は出ているとはいえ、もしかすると、それはデジタルに代わってしまうのではないかという懸念があります。例えば最近海外の大学の授業であるように、知識は事前に学習してきて、授業では主にコミュニケーションをとりながら学んでいくというアクティブラーニングのような教育手法になってくると、教材は電子化されていた方がよいのではないかという話になってゆくように思います。

山：そうすると、要するに中抜きになって、出版社が直接顧客と取引することになりますね。

土：だから、そういう意味では、英語需要が出てきてELTの調子がいいといっても、バンザイともろ手を上げるわけにはいかないというような。前号の小野さんとの対談を見ているとそう思いますね。

松：版元は良いのだと思います。

土：競争相手が変わってきてしまうかもしれないですね。

山：ありがとうございました。次は、土方さん、店舗についてお願いします。

土：関係者にヒアリングした範囲の話ですと、やはり大型

書店はともかく、中小の書店は非常に厳しく、中堅どころでも洋書売り場のスペースを縮めているということが顕著に見られるそうです。消費者は価格に敏感でネットへの注文にシフトしているということ。それから、震災以降、外国人が減っている。当時から比べれば戻ってきているのかもしれませんが。

また、洋書の取り次ぎは、リスクヘッジのため商品をかき絞る必要があり、そのため目新しさが薄れてきてしまっているということを言っていました。電子ブックの影響は、まだそれほど感じてはいないということと、先ほど小松崎さんがおっしゃったように、店舗に目利きが減ってきて、悪循環に入ってしまったようにも感じるというコメントもありました。今、店舗としては、横ばいですがELTや児童書が順調のようです。

マ：土方さんのお話はやはり事実だと思います。UPSのような取り次ぎは在庫を絞る必要があります。昔は何でも「見計らい」にできました。小さい大学出版局でも在庫を取って、書店に出していたのです。でも、それが戻ってきたら在庫の問題になるのです。リスクがありますから、何が売れそうか、考えて取らなくてはならないのです。

松：実際は良く売れるものはアマゾンにも必ず在庫があって、本当に欲しいものに限って、どこにも在庫がないということも起きていますね。

山：土方さん、それではそろそろ今日のお話をまとめていただけますか？

土：これは私どもの取引のある出版社の方から聞いたのですが、ここ数年は出版社にとって紙も、それから、電子も含めて非常によかったということです。しかし、この2013年は円安の影響も受けて、買い控えを含め非常に厳しい年にあります。2013年をどう乗り切るかによって2014年が見えてくると思います。

明るい材料とすれば、やはり英語教育。文科省をはじめ、やっぱりグローバル化・人材育成ということで、英語教育に力を入れていこうという流れがある。小学校だけでなく、大学等においても力を入れていて、原書の良書を使おうというような動きになってきたといったことは明るい材料ではあると思いますし、ここに多少期待をかけたい。ただし、電子化の流れが片方にあるので、要するに、今までの洋書、当会のメンバーがそれで享受できるかどうかは分からない。全く違う世界（デジタル）の人たちと、競争しなきゃいけないかもしれない。したがって、洋書協会はもう少し、外にも目を向けてゆき、そして各社が今まで蓄積したノウハウを活かして明るい2014年を描いていけたら良いと思います。

山：土方さん、皆さん、本日はありがとうございました。

以上、理事の皆様にお話しいただきましたが、紙面の都合で割愛させていただいた部分がございます。JAIPウェブページに全文を掲載しますので、是非そちらもご覧ください。

(取材日 2013年 11月 11日)

理事会報告 2013年11月11日(月)

出席：土方理事長、グレシヤム副理事長、山川理事、相澤理事、松村理事、小松崎理事、細谷理事（河村委員長、事務局）

1. 予算状況

事務局から10月度終了時累積での説明があり、概ね予算通りで承認された。

2. 総務委員会報告

総務委員会主催セミナーについて河村委員長から説明があった。内容は以下の通り。

セミナー名称「未定」（11月26日決定予定）

セミナー内容

- ・海外からの輸入品に関わる消費税課税の理解を深める
 - ・特に、国内業者と海外業者の不公平さとは
 - ・不公平さの是正に関わる海外（ヨーロッパ）の事例
 - ・日本における是正の動き
 - ・この動きは冊子体書籍輸入にもつながるのか（対アマゾン）
 - ・詳細は11月15日の打合せを経て、26日に三木先生と面談して決定
- 講演者 三木義一様(青山学院大学法学部教授)

（インターネットサービスにおける公正な消費税課税を求める連絡会メンバー）

実施日時 1月28日（火）午後3時～4時半（質疑応答含む、予定）

実施場所 未定

討議の結果、このセミナーの実施は了承された。またこのセミナーは会員以外の参加を認める方向で進める。他の未定事項を含め、総務委員会で詰める事とした。

3. 理事長から

委員会報告

・文教グループ（相澤）

21日の専修大学図書館見学会はまだ人数に余裕があるので、参加を募る。

・文化・厚生委員会（小松崎）

前回のアンケートから「美術館ツアー」を企画。単なる見学で無く学芸員との交流も考えている。

・SIG（山川）

小野氏との対談にも有ったようにLibrarianとのパネルディスカッションを企画したい。

28日に出版文化国際交流会創立60周年の会がある。協会の代表として出席する。（理事長）

以上

海外ニュース

国際的なE-rightsの利権

Bureau International de l'Edition Française(略称BIEF フランスの出版物を海外に紹介する機関)の2回目の国際的な調査によると、出版社と著者のあいだに結ばれる契約において、E-rights(電子化権利)は、急速に不可欠な項目になりつつある。

調査は、アメリカ、イギリス、ドイツ、イタリア、スペイン、日本、アルゼンチン、ブラジルの出版社50社の協力のもとに行われた。

2011年の最初の調査のときは、電子化権利が紙の書籍の契約に含まれはじめたころだった。今回の調査はその傾向がさらに進んだことを示し、新しい要素も現れている、とBIEFのビジネス・インテリジェンス・マネージャー、Karen Politisは言う。2011年の調査では、契約において電子書籍のテキストのみが保護されており、マルチメディアや汎用的な権利は除外されていた。今では約3分の2の出版社が、これらすべての権利を契約書に盛り込んでいる。回答した出版社の約半数は、デジタルのみの契約にも乗り出すつもりである。

まだ少数派ではあるが、電子書籍のアドバンス(売上の前払

い)を要求する著者や組織が増えつつあるという。その要求が受け入れられているかどうかは不明だが、46%の出版社では今のところ動的価格設定、すなわち市場の需要や他の諸要因を考慮した価格を設定している。

調査した50社のうち、新刊を電子化していないのはたったの3社だった。約半数の出版社は汎用的なコンテンツを製作しており、全商品の25%を占めている。そのまた半数がアプリを開発していた。

Digital Rights Management (DRM)=デジタル著作権管理は、違法な複製を防ぐもつとも有効な手段であるが、回答した出版社の半数以上は、DRMの専売的なフォーマットに合わせる暗号化の廃止を考えていた。

ほとんどの出版社が1年に一回、あるいは2年に一回の頻度で著者に料金を支払っていた。約半数は紙の書籍と電子化商品の売り上げを分けて支払っていた。リアルタイムの売上状況を知らせるシステムの確立については、大部分の出版社が計画していないと答えた。

(The Bookseller 22 Nov. 2013)

ニュース提供：U. P. S.

専修大学図書館見学会

極東書店 仕入部 商品課 石田浩平

私は本年度より古書やコレクションの仕入れを扱う担当となった。正直なところこの分野についての知識や経験は皆無に等しく、これから習わなければならないことは多い。従って、現在古書の実務を行っていても、その関心の向かう先は通常の商品とは比べ物にならない百万、時には一千万単位の価格やその資料がいかに貴重かつ珍しいものであるかを強調した宣伝文のみで、いわば野次馬的な関心で貴重書を眺めるにとどまっている。こうした商品が納品後どのように扱われているのかというところまで関心を向けることはできないでいた。そういう意味で、今回の見学会は自分の行った仕事がその後どのように大学の現場で生かされているのかを知る絶好の機会となったといえる。

今回の図書館見学会には11名が参加。図書館においては特別展『フランス革命と自由民権』が開催されていた。そこでは専修大学の所蔵する貴重書のなかでも中心的な蔵書の一つ『ミシェル・ベルンシュタイン文庫』より、「人権宣言」、「1791年憲法」、「1793年憲法」、「ナポレオン法典」といった、かつて世界史でも習ったフランス革命における重要な資料がオリジナルと複製品も交えて展示されていた。今回はそれに合わせて専修大学文学部の新井先生の個人所蔵の資料より自由民権運動期に日本各地で作成された私擬憲法および先生自身が研究中に発見した「五日市憲法」（複製）が展示され、時代と地域を超えた歴史的出来事を比較しようと

いう図書館側からの意気込みが感じられた。（尤も、図書館員の方の説明ではこの二つの歴史的出来事の関連性は学術的にはっきりとした結論は無いとのこと。）

今回は特別展及び貴重書庫の見学を通しての感想としては、書店として貴重書の取り扱いと販売を通してやはり学術の新しい視点や国際的な交流の一旦を担うことができるということであった。資料そのものの貴重さへの驚きもさることながら、今回の特別展での歴史的出来事の比較の試みのように、学術の視点を提供するために貴重書がその一助を担っていることにより強い関心を覚えた。またこの展示会に合わせるような形で11月23日24日に行われる学術シンポジウムのためにフランスの大学より研究者が来日しており、ちょうどこの見学会の時に図書館で資料調査をしているところであった。「資料の質、量とともにフランスの国立図書館に次ぐ」というベルンシュタイン文庫の存在が世界との知的交流の基礎になっていると感じた。

本見学会ではその他にも「パッチョリのスナマ」、「ナポレオンのエジプト誌」など、専修大学の所蔵しているここでは書ききれないほどの貴重書コレクションの数々を見せてもらった。これらが今後どのように生かされるのか楽しみにも感じる。自分としては単に高額な貴重書を扱うということのみではなく、学術や知的な交流の一端を担うことができるということを意識して今後この仕事に取り組んでいければと思った。



International Book Fair in 2014

Name of Fair	Date	Place	website/e-mail
Taipei International Book Exhibition	05/02/2014 – 10/02/2014	Taipei	http://www.tibe.org.tw
			info@tibe.org.tw
Leipzig Book Fair	13/03/2014 – 16/03/2014	Leipzig	http://www.leipzig-buchmesse.de
			info@leipzig-buchmesse.de
Salon du Livre Paris	21/03/2014 - 24/03/2014	Paris	http://www.salondulivreparis.com
			livre@reedexpo.fr
Bologna Children's Book Fair	25/03/2014 – 28/03/2014	Bologna	http://www.bookfair.bolognafiere.it
			dir.com@bolognafiere.it
Abu Dhabi International Book Fair	30/04/2014 – 05/05/2014	Abu Dhabi	http://www.adbookfair.com/
			info@adbookfair.com
Warsaw International Book Fair	22/05/2014 - 25/05/2014	Warsaw	http://www.bookfair.pl/
			mtk@arspolona.com.pl
BookExpo America	28/05/2014 – 31/05/2014	New York	http://www.bookexpoamerica.com
			inquiry@bookexpo.america.com
Special Libraries Assn. Annual Conference	08/06/2014 - 10/06/2014	Vancouver	http://www.sla.org
			sla@sla.org
Seoul International Book Fair	18/06/2014 – 22/06/2014	Seoul	http://www.sibf.or.kr/eng/
			danapark@kpa21.or.kr
American Libraries Assn. Annual Conference	27/06/2014 - 02/07/2014	Anaheim, CA	http://www.ala.org
			ala@ala.org
Tokyo International Book Fair	02/07/2014 – 05/07/2014	Tokyo	http://www.bookfair.jp
			tibf@reedexpo.co.jp
Hong Kong Book Fair	16/07/2014 – 22/07/2014	Hong Kong	http://hkbookfair.tdctrade.com
			exhibitions@tdc.org.hk
Beijing International Book Fair	27/08/2014 – 31/08/2014	Beijing	http://www.bibf.net/
			bibfmo@bibf.net
Moscow International Book Fair	03/09/2014 – 08/09/2014	Moscow	http://www.mibf.ru
			mibf@mibf.ru
Frankfurt Book Fair	08/10/2014 – 12/10/2014	Frankfurt	http://www.book-fair.com/en/fbf/
			info@book-fair.com
CIROBE	10/2014 -	Chicago	http://www.cirobe.com
			info@cirobe.com
Salon du Livre Montreal	11/2014 -	Montreal	http://www.salondulivredemontreal.com
			slm.info@videotron.ca



ユサコは
学術書コンテンツと
ソフトウェアの
プレミアムセレクトショップ
です。

海外出張・海外見本市視察

～格安航空券＋市内ホテルのお得な自由日程旅行プラン～

予約受付中の見本市（2013年12月現在）

★ *BOLOGNA CHILDREN'S BOOK FAIR*

開催時期：2014年 3月24日～3月27日 開催地：ボローニャ（イタリア）

旅行代金：¥215,000～ <3/23 出発 4泊6日 モデルパターン>

ZANHOTEL EUROPE 滞在

その他、ROYAL HOTEL CARLTON などの利用プランがございます。

★ *LONDON BOOK FAIR*

開催時期：2014年 4月8日～4月10日 開催地：ロンドン（英国）

旅行代金：¥129,000～ <4/7 出発 3泊5日 モデルパターン>

CITY CONTINENTAL LONDON KENGINSTON HOTEL 滞在

★ *LE SALON DU LIVRE (PARIS BOOK FAIR)*

開催時期：2014年 3月21日～3月24日 開催地：パリ（フランス）

旅行代金：¥155,000～ <3/20 出発 3泊5日 モデルパターン>

MERCURE OPERA GARNIER HOTEL 滞在

★ *BOOK EXPO AMERICA*

開催時期：2014年 5月29日～5月31日 開催地：ニューヨーク（米国）

旅行代金：¥179,000～ <5/28 出発 4泊6日 モデルパターン>

NH JOLLY MADISON TOWERS HOTEL 滞在

★ *FRANKFURT BOOK FAIR*

開催時期：2014年 10月8日～10月12日 開催地：フランクフルト（ドイツ）

※視察プラン企画（手配・お見積もり受付中）

※MOVENPICK MESSE HOTEL など見本市会場付近のホテルを始め、
市内ホテルを多数確保しております。

☆弊社では下記見本市の旅行手配を毎年行っております。

LONDON BOOK FAIR（ロンドン）

FRANKFURT BOOK FAIR（フランクフルト）

PARIS BOOK FAIR（パリ）

HONG KONG BOOK FAIR（香港）

BOLOGNA CHILDRENS BOOK FAIR（ボローニャ）

BEIJING BOOK FAIR（北京）

BOOK EXPO AMERICA（米国）

TAIPEI BOOK FAIR（台北）

お問い合わせ：株式会社ジェイワールドトラベル

JATA正会員（観光庁長官登録旅行業第1359号）

TEL:03-3402-9955 / FAX:03-3402-9698 担当：藤代

URL:www.jw-trvl.co.jp / E-mail:tet@jw-trvl.co.jp

その他、早割り航空券やビジネス・デイスカウトの手配や国内出張なども取り扱っております。